

# 「世界遺産」と「無形文化遺産」の違い

## 世界遺産

人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件のことで、**移動が不可能な不動産**やそれに準ずるものが対象

世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約  
(昭和50年発効)

## 文化遺産

記念物、建造物群、遺跡  
**※遺跡の概念の中に「文化的景観」**  
(例) 古都京都、古都奈良、平泉、石見銀山など

## 自然遺産

地形や景観、生態系など  
(例) 小笠原諸島、屋久島、知床など

## 複合遺産

文化と自然の両方の価値

## 無形文化遺産

人から人へと継承される芸能や祭礼、伝統工芸などが対象

無形文化遺産の保護に関する条約  
(平成18年発効)

- ・口承による伝統及び表現
  - ・芸能
  - ・社会的慣習、儀式及び祭礼行事
  - ・自然及び万物に関する知識及び慣習
  - ・伝統工芸技術
- (例) 京都祇園祭の山鉾行事、人形浄瑠璃など

# 文化的景観

- ・「遺跡」の定義の中の、「**自然と人間の共同作品**」に相当するもの
- ・人間社会が自然環境による制約の中で、社会的、経済的、文化的に影響を受けながら進化してきたことを示す遺産

## ● 文化的景観の3つのカテゴリー

### 意匠された景観

- 庭園や公園、宗教的空間など、人間によって意図的に設計され創造された景観

### 有機的に進化する景観

- 社会や経済、政治、宗教などの要求によって生まれ、自然環境に対応して形成された景観。**農林水産業などの産業とも関連**
- すでに発展過程が終了している「残存する景観」と、「現在も伝統的な社会の中で進化する「継続する景観」に分けられる

### 関連する景観

- 自然の要素がその地の民族に大きな影響を与え、宗教的、芸術的、文学的な要素と強く関連する景観

## 何故、宇治茶は世界文化遺産を目指すのか

- 京都・宇治を中心とした旧山城国域は、首都を擁するという特性を背景に、現代の日本茶を代表する抹茶・煎茶・玉露という常に新しい茶の栽培・製法を開発するとともに、現在の日本を代表する喫茶文化を生み、支え、育んできた地域である。
- 茶畑、茶工場、茶師・茶問屋の屋敷、茶室、寺社など茶の生産、流通、喫茶にわたる日本茶文化の変遷を示す代表的な資産が集積し残っている。
- 登録に向けた取組を進めることにより、
  - ・ 宇治茶の魅力や価値を大切にして、原点である地域ぐるみでの景観保全や技術、文化を維持していく
  - ・ 宇治茶の価値を日本や世界の人々に伝え、人類共通の貴重な宝として将来にわたって継承していく。

# 宇治茶の文化的景観

日本緑茶の源流・宇治茶文化の景観(仮称)





# 宇治茶の文化的景観

## 日本緑茶の源流・宇治茶文化の景観(仮称)



# 宇治茶の文化的景観

## 日本緑茶の源流・宇治茶文化の景観(仮称)

